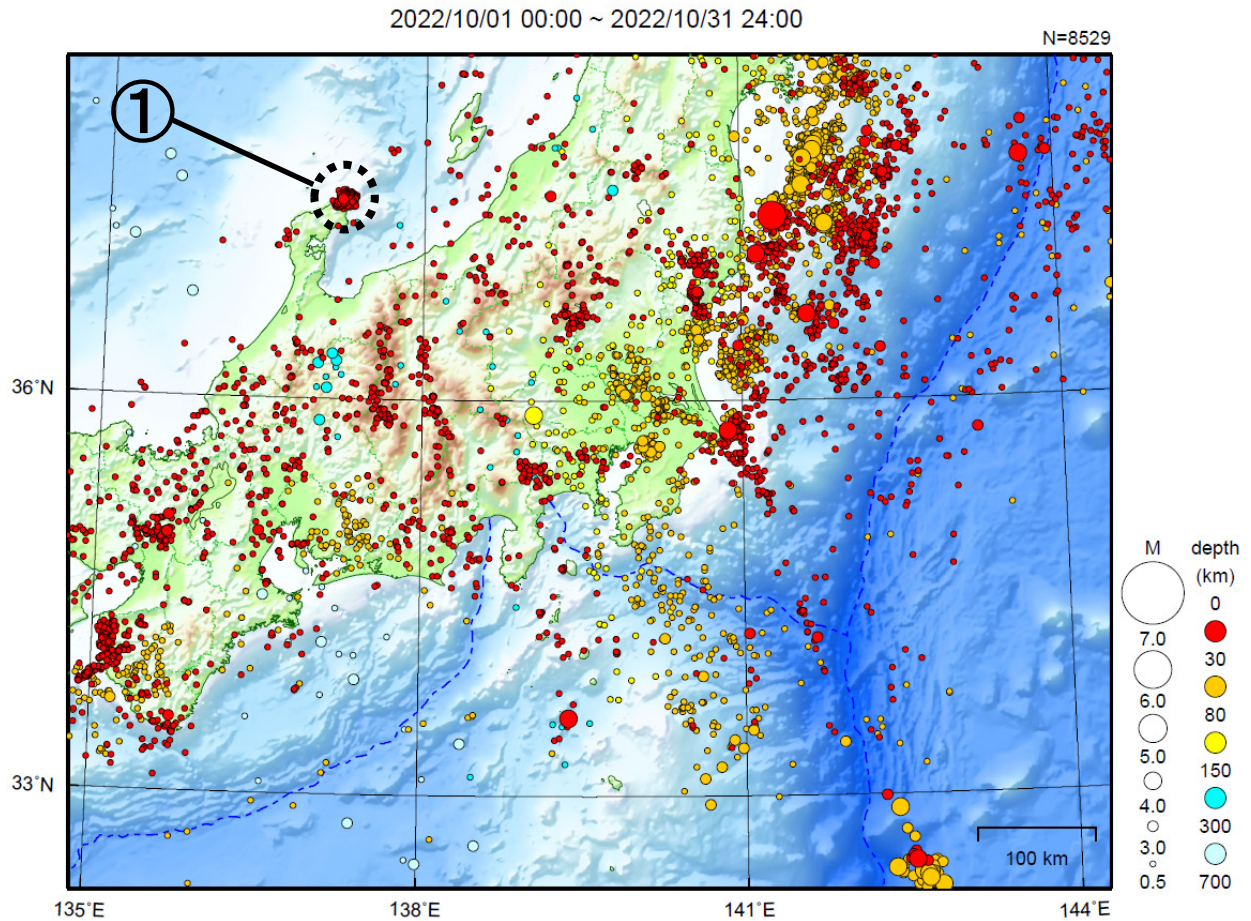


関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 石川県能登地方では10月中に最大震度1以上を観測した地震が10回（震度1：10回）発生した。このうち最大規模の地震は、25日のM3.2の地震（最大震度1）である。

能登半島沖で発生した地震を2回含む。

（上記期間外）

11月3日に千葉県北西部でM4.9の地震（最大震度3）が発生した。

〔上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

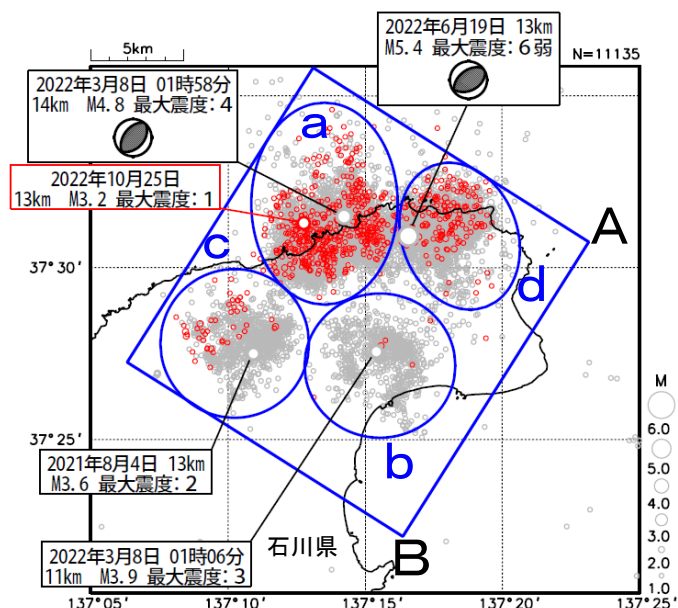
気象庁・文部科学省

石川県能登地方の地震活動

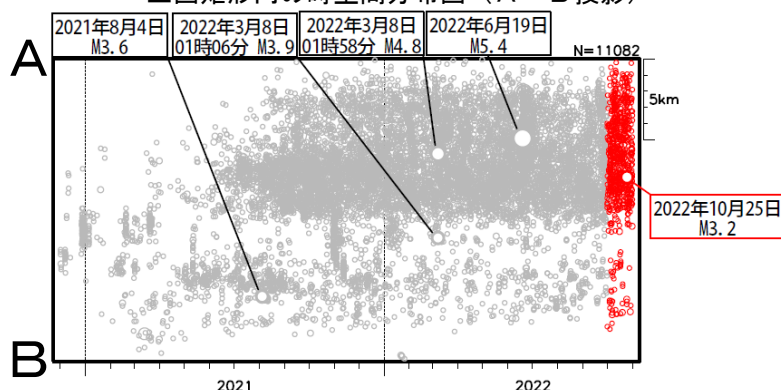
震央分布図

(2020年12月1日～2022年10月31日、
深さ0～25km、M \geq 1.0)

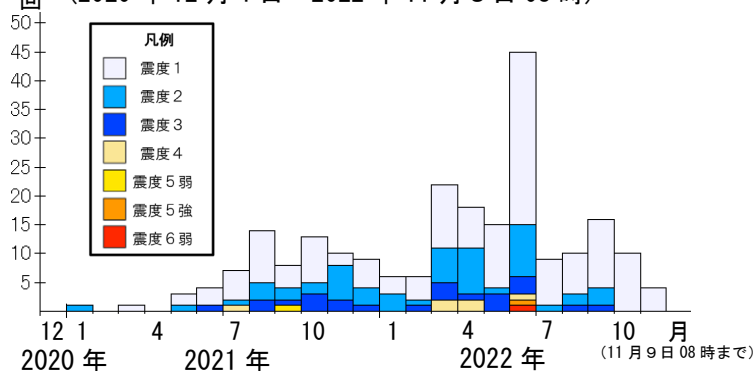
- 2022年10月の地震を赤色で表示、図中の発震機構はCMT解
- 黒色の吹き出し：領域a～dの各領域内で最大規模の地震
- 赤色の吹き出し：矩形内で2022年10月中の最大規模の地震



上図矩形内の時空間分布図 (A-B投影)



矩形内の地震の月別震度別発生回数
(2020年12月1日～2022年11月9日08時)



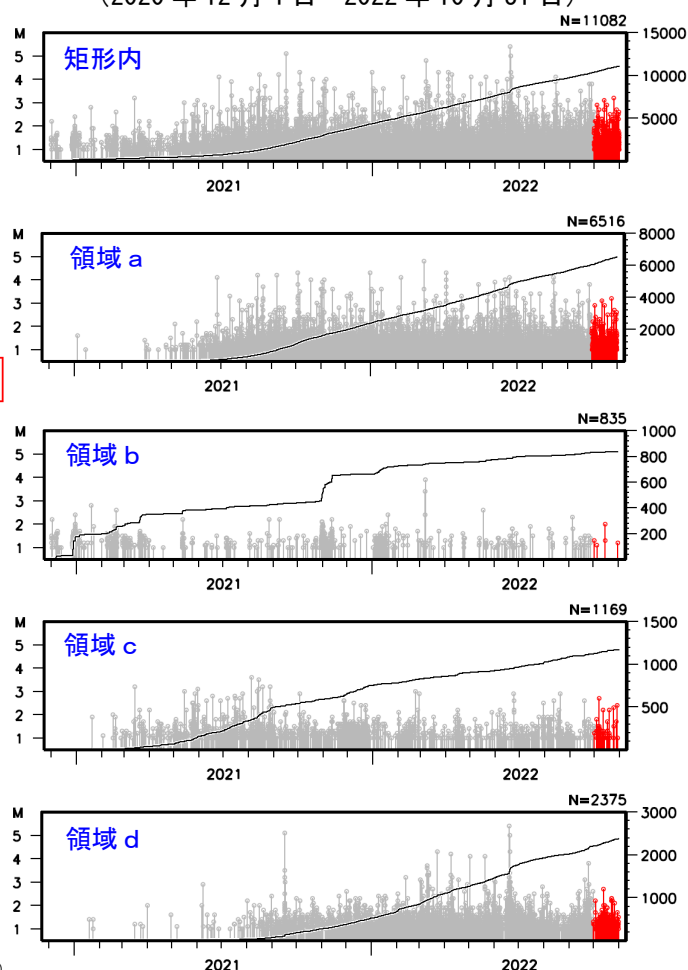
期間別・震度別の地震発生回数表

期間	最大震度別回数							
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	計
2020年12月1日 ～2022年9月30日	132	53	23	6	1	1	1	217
2022年10月1日～31日	10	0	0	0	0	0	0	10
2022年11月1日～9日08時	4	0	0	0	0	0	0	4
計	146	53	23	6	1	1	1	231

石川県能登地方 (矩形内) では、2018年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020年12月から地震活動が活発になり、2021年7月頃からさらに活発になっている。2022年10月中もその傾向は継続している。2022年10月中の最大規模の地震は、25日に発生したM3.2の地震 (最大震度1) である。なお、活動の全期間を通じて最大規模の地震は、2022年6月19日に発生したM5.4の地震 (最大震度6弱) である。

2020年12月以降の領域別の地震活動をみると、最初に活発化した領域bの活動は、2021年4月以降鈍化傾向であるが、2021年11月初頭前後、2022年1月頃及び3月頃に一時的に活発になった。領域bに続き活発化した領域cの活動も、2021年9月以降鈍化傾向であるが、2021年12月にやや活発になった。一方、遅れて2021年半ば頃から活発化した領域a及び領域dの活動は依然活発である。矩形領域内で震度1以上を観測した地震の回数は期間別・震度別の地震発生回数表のとおり。

左図矩形内及び領域a～d内の
M-T図及び回数積算図
(2020年12月1日～2022年10月31日)



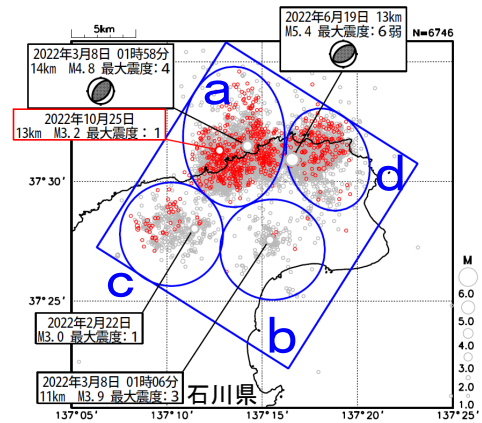
石川県能登地方の地震活動（最近の活動）

震央分布図
(2022年1月1日～2022年10月31日、
深さ0～25km、 $M \geq 1.0$)

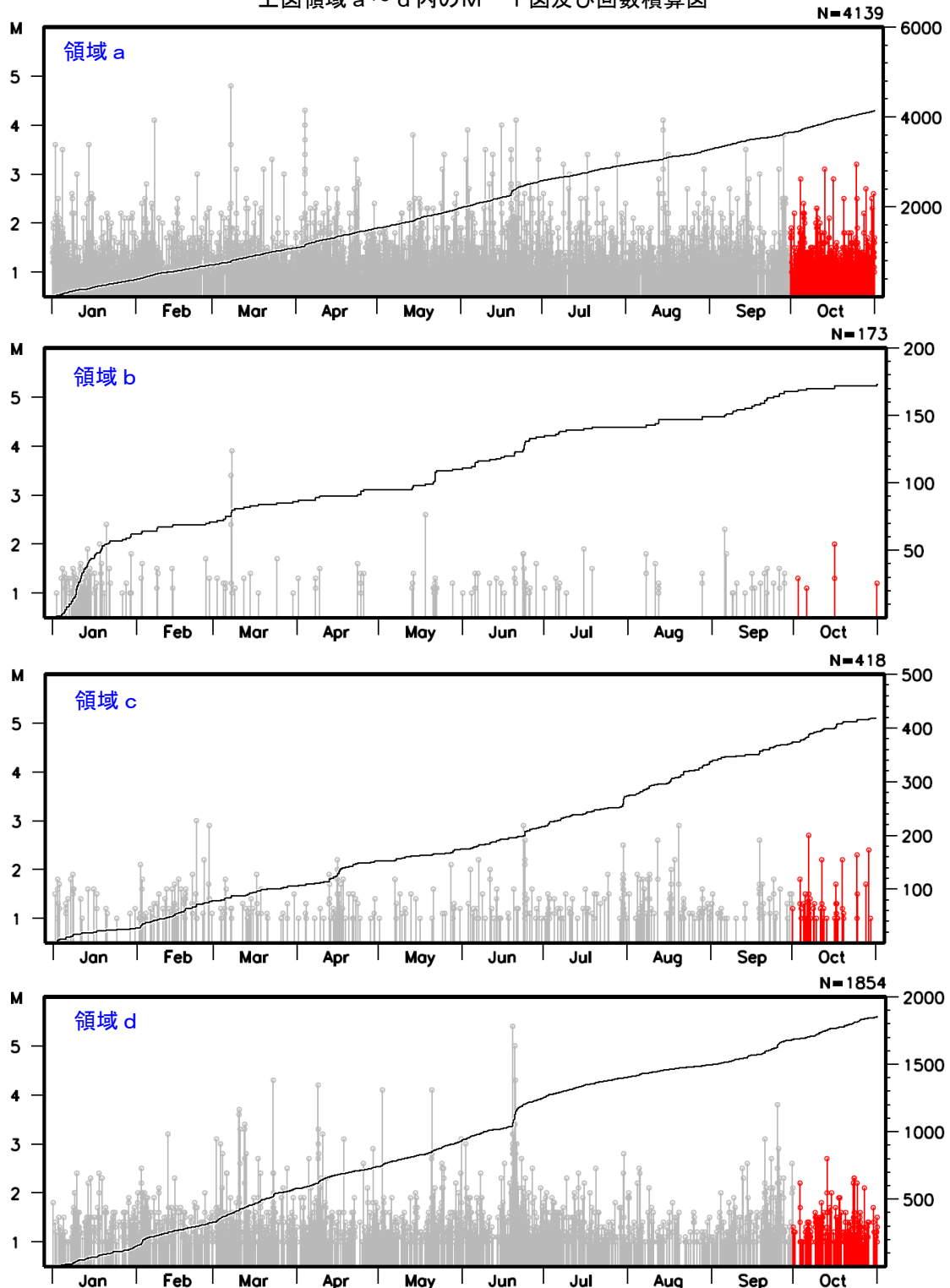
2022年10月の地震を赤色で表示

図中の発震機構はCMT解

- ・ 黒色の吹き出し：領域a～dの各領域内で最大規模の地震
- ・ 赤色の吹き出し：矩形内で2022年10月中の最大規模の地震

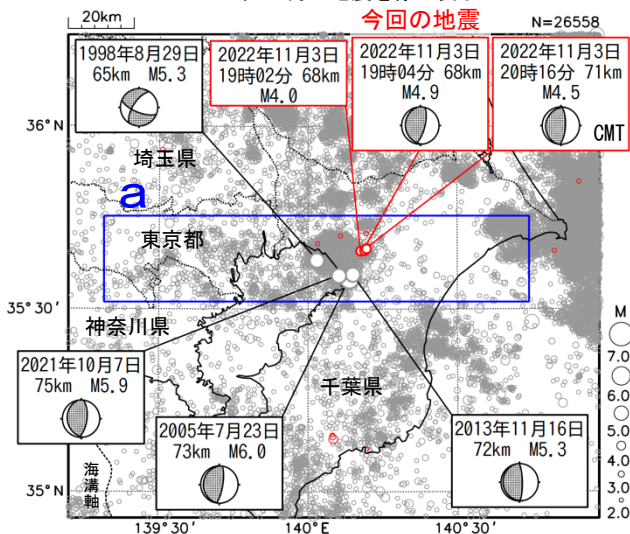


上図領域a～d内のM-T図及び回数積算図



11月3日 千葉県北西部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2022年11月6日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)
2022年11月の地震を赤く表示

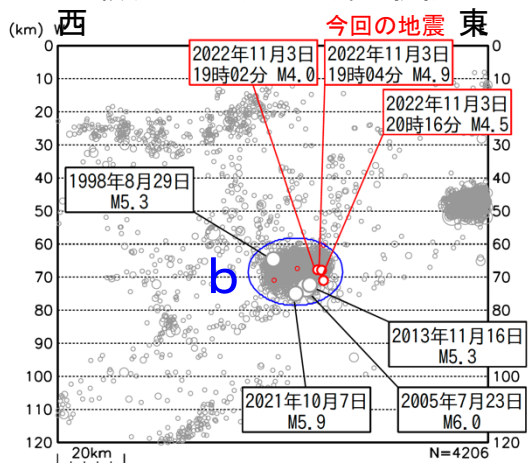


2022年11月3日19時04分に千葉県北西部の深さ68kmでM4.9の地震 (最大震度3) が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。また、この地震の震源付近では、同日19時02分に深さ68kmでM4.0の地震 (最大震度2)、20時16分に深さ71kmでM4.5の地震 (最大震度2) が発生した。

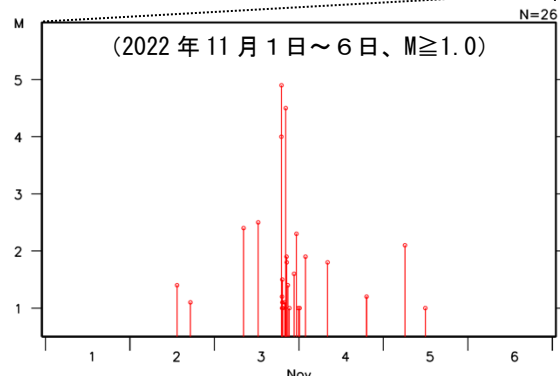
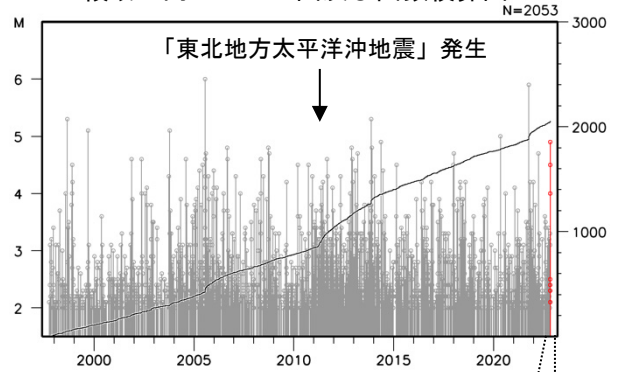
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、地震活動が活発な領域であり、2005年7月23日のM6.0の地震 (最大震度5強)、2021年10月7日のM5.9の地震 (最大震度5強) が発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。また、「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」 (以下、「東北地方太平洋沖地震」) の発生以降、地震活動が一時的に活発になったが、徐々に落ち着いてきている。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生している。1956年9月30日に発生したM6.3の地震 (最大震度4) では、負傷者4人などの被害を生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

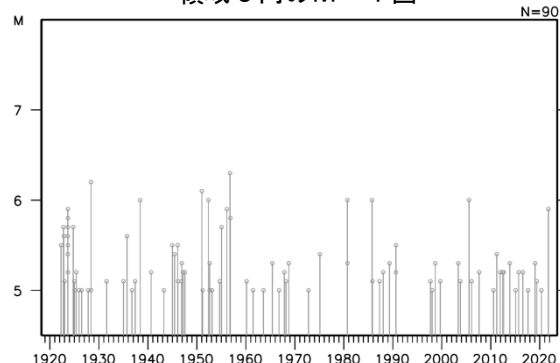
領域a内の断面図 (東西投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図



震央分布図
(1919年1月1日～2022年11月6日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)
2022年11月の地震を赤く表示

